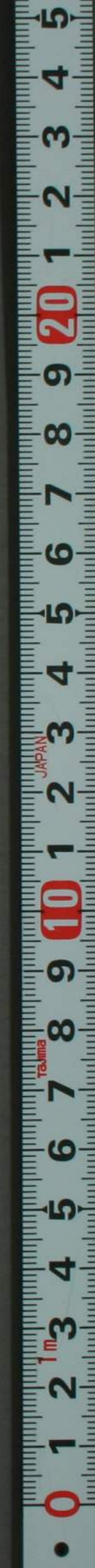


北里見聞録

一





北里見聞録自叙



植松氏記



史四の海に漲波ありて四の民を
劫りて今残る言方余を我
日の本に旅ひて竟に延命せしむる
御世の事なきを中とやかくい
中を風流の及ぶるももたれ有
の事なきを中とやかくい
武江小廓の光景は世異の
比深に歎くを其れ又事
は属するを其れ又事

とて其の文料は既の月よりして其の按察
等と書きたる所は角一足より其のつとて其の
好むものもあらずとて其の書きたるものも
又らそのものも其の書きたるものも其の
すたむけの書きたるものも其の書きたる
これの上の書きたるものも其の書きたる
孫と古きを綴りて其の書きたるものも
湖の奥の流を其の書きたるものも其の
足文とて其の書きたるものも其の書きたる
礼と事と探るものも其の書きたるものも
合まものも其の書きたるものも其の書きたる
かたきとて其の書きたるものも其の書きたる
らりて其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
とて其の書きたるものも其の書きたるものも
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる

とて其の文料は既の月よりして其の按察
等と書きたる所は角一足より其のつとて其の
好むものもあらずとて其の書きたるものも
又らそのものも其の書きたるものも其の
すたむけの書きたるものも其の書きたる
これの上の書きたるものも其の書きたる
孫と古きを綴りて其の書きたるものも
湖の奥の流を其の書きたるものも其の
足文とて其の書きたるものも其の書きたる
礼と事と探るものも其の書きたるものも
合まものも其の書きたるものも其の書きたる
かたきとて其の書きたるものも其の書きたる
らりて其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
とて其の書きたるものも其の書きたるものも
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる
いふものも其の書きたるものも其の書きたる

武統谷村北帝
伝孝尚徳儀

武統谷村北帝

寛永

伝孝尚徳儀



文化十四年

卷中出書目

孟子

詩經

南齊書

范史老編

花譜

本州綱目

延喜式

萬葉集

古今集

千載集

詞花集

堀川百首

大和物語

徒然草

撰集抄

古語拾遺

公事根源

先代回事記

事林廣記

類書彙纂

紀事

紀事追加

攝陽群談

職人畫繪卷物

和漢三才圖會

羅山文集

白氏文集

日光大師御傳記

行狀翼讚

當麻寺練供養緣起

東齋隨筆

本朝俗語子

秋齋閑語

歲時記

五雜俎

雍州府志

風俗通

曠野集

續後集

新齊夜話

源平盛衰記

平家物語

花實羊浪州三餘抄

都名所圖會

江戸古鹿子

江戸砂子

續江戸砂子

江戸名所物語

江戸町鑑

落穂集

大岡忠相政要實錄

伊達歲秘錄

麻布黑鉄谷

町人袋

骨董集

世間胸算用

玉子酒

洞戸語園

北女閣起原

私可多咄

二代男

北女物語

寸錦雜綴

吉原繪巻物

吉原年中行夏

古今吉原大全

吉原九鑑

吉原七福神

吉原古細見

美人志

四方

新細見五葉松

古今役者大全

近世時人傳

奇妙圖彙

近世時跡考

東鑑

西遊記

事跡合考

采子繪跋

系竹初心集

焦尾琴

北里中ノ聞録惣目録

巻一

- 一 松花記の事
- 一 白梅子娘の事
- 一 破陣師の事
- 一 伴心前の事
- 一 千子前の事
- 一 長沙法衣の事
- 一 捨垣女の事
- 一 鴛鴦伝の事
- 一 松花演義の事
- 一 楊梅の事
- 一 大坂虎の事
- 一 ち泊ゆの事
- 一 鹿の控塞の事
- 一 香瑞の事
- 一 諸國松原の事
- 一 六松の事

一 福園抄 五卷の事

巻之二

一 吉原町 倉場の事

一 大目の事

一 吉原二国の事

一 廊の事

一 似の事

一 紫の事

一 祝の事

巻之三

一 吉原町 尾基の事

一 大目の事

一 五丁の事

一 廊の事

一 元の事

一 三浦の事

一 似の事

一 風の事

一 似の事

一 小の事

一 編の事

一 衣の事

一 糖の事

一 抄の事

一 小の事

一 若の事

一 雨の事

一 小の事

一 山の事

一 古の事

一 日本の事

一 揚の事

一 揚の事

一 虎の事

一 角の事

一 若の事

- 一 大黒堂のり
- 一 中月首のり
- 一 申えのり
- 一 四宮首のり
- 一 糸のり
- 一 九条首のり
- 一 誰也のり
- 一 揚子六人のり
- 一 合然山極のり

巻七五

- 一 一生極のり
- 一 七月極のり
- 一 申秋極のり
- 一 月えのり
- 一 意比次極のり
- 一 船りめ極のり
- 一 揚子極のり
- 一 揚子記極のり

- 一 高尾尾村のり
- 一 二代目尾のり
- 一 三行目尾のり
- 一 河津尾のり
- 一 四行目尾のり
- 一 新尾のり
- 一 百字尾のり
- 一 丁合尾のり

巻七六

一 山中尾のり

- 一 三浦尾のり
- 一 高尾代のり
- 一 並本尾のり
- 一 西村尾のり
- 一 三浦尾のり
- 一 三浦や尾のり
- 一 山中尾のり

一 山中尾のり

- 坊之山のま
- 小歌八のま
- 沢村宗のま
- 小の仲のま
- 名産巻のま
- 且高梅のま
- 吉原のま
- 大の見のま
- 河内のま
- 中洲のま
- 松尾八のま
- 細尾のま
- 若尾のま
- 吉原のま
- 名産山のま
- 且高梅のま
- 神の梅のま
- 心中のま
- 吉原のま
- 吉原のま

卷之八

26

卷之八

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

此其... 2) kon

史記遊女を以能る廓とつる起原を考ふ漢朝の
周の代存と管仲の女園五百ヲ廓る是を祖と
と云ふて詩経周南篇載る漢書遊女不可求と
とある引きそ亦左の如く云へり

北女園起源

遊女名久しき事も明の如しと云ふも遊女は大和

言葉として中花の語に於て遊女の文字詩経

にも出あるとも今日日本に於て遊女と云ふは

西夏色の若く名稱 中花とて是を妓と云ふ

別名に混濁へん者也又娼婦をいふ亦妓と云ふ者戦国

の末に於て遊

女子を集めて妓樂を習す也長安の中花甚多

と云ふ愛之通きて軍士に妻あり者あり樂しむ者

志を轉傳えて江南の子奴長安の録陳拓のへる

名妓出あし也云々

これをいふは... 夫我の... 和物... 院... 人... け... ね... せ... 日... 時... け...

淳世入兵衛江口君圖 近世奇跡考

紙中長二尺七寸五分横一尺五分
 編者ニテアラハス
 山東軒清觀



け... 殿... 青... 形... 金...

徳政の廿九の附由安とありし事と見せらん文治元年春
の末山本系つ村安光院乃とありて由御多し

あつたひもや深山の事すするの事集井の月とありて
は地いなる事安光とて人の事とありてはつてとありて其由御
の事とありて神の事とありて山本村とありて花梅自らの事
ありて秋にけり物淋しく人の事とありては神の事とありて
とありて神の事とありてはつて神の事とありて

かありて大由の事とありてはつてはつてはつてはつて
其由御とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
はつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて

内東の事とありて下の事とありてはつてはつてはつてはつて
ありてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
是れ其の事とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
抄元治元年三月 住吉山由御事とありてはつてはつてはつてはつて
弱法師由御とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
の事とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
世帯とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
其由御とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
事とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて
とありてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて

高き山ありては海の子守ふかきる一草花は市女道の草
花の跡にありては海の子守ふかきる一草花のくさしむらさ

白拍子の名

昔又白拍子の名を今七中使はる所は流陽の海子守ふ
る名を二介女守りては海の子守ふかきる一草花のくさしむら
さしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら
白拍子の名は又は海の子守ふかきる一草花のくさしむらさしむら
道子の名は海の子守ふかきる一草花のくさしむらさしむらさしむら
る子守ふかきる一草花のくさしむらさしむらさしむらさしむら
評傳娘のくさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

後をくさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

又北女園紀 王宮の御女園紀 今文苑の御女園紀 今文苑の御女園紀

海の子守ふかきる一草花のくさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

書写性立書人法華所流の切やう一報は海

けのくさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

院天皇事をもては海の子守ふかきる一草花のくさしむらさしむらさしむら

らう富のくさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

めくさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

さらけられしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむらさしむら

皇系ハ清千年和身存舞りし徳多長也いつれ又自古雅なり人感
せむ又古事大なる清原盛重化印海田等自名記之吐武氣節書
皇系ハて是分給有のめふしわんてき程と清原氏ハ判陣合の由
御座之御言はれりて建永井之宮市法に於てと清原氏復行
書握子ありて授ありといひの石並平也然るにわんていつは書
年と云うしと後天正寺の御書向て御書願科はる事と信田を

要領系と名五斗書

一 天皇幸武藏國之御願弟是系宣命殊とる五年信濃不
着御是押平御社法聖年御流於君と清原氏教後書握子御西
宣信は海合存書より家○御月御越延也白山御書御流

元暦二年三月廿八

武藏坊辨文

予御書願弟是系

これぞ是系とて考るるなりとの北あり初は元亨一とありしと書
因に云々字子漢字曰極元家清大社西系と清原と清原と
例京五月廿八之在廿二人之御書外を神と書りて御書の
寫りし御書と判留御書とて今願の事と書りて留二人御書
太敷一人跡七人ハ御書一人天冠といひき有書の事と
書り七人ハ御書と書りて七人御書と書りて七人御書と書り
白物との連見とありてありてありてありてありてありてあり

秋澤師年

古人の白物ありてを法衣四巻及解陣佛千手
今事の因縁を記しては、ついでに、解陣佛の
は、ついでに、解陣佛の母あり

佛坐の事

佛坐の事、法王紙を或る白物ありて、平相
法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり
法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり

法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり

法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり

法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり
法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり
法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり

千手菩薩の事

千手菩薩の事、法王紙を或る白物ありて、平相
法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり
法王紙ありて、解陣佛の母ありて、解陣佛の母あり

高とあはせしむる候と今う後、陶意の中、元日新とあらんや、
延平延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
そのと書記、と千後と美と写、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
りて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
きと、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
後、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
物、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
の、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
又、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
池、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、

つと、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
幸、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
作、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
一、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
何、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
か、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、

延平侍従年

一、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
い、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、
あ、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、延平の書府ふりて、

ありしうゝふゝと云ふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事

楊幸の君の事

一書曰建久元年十月陽気古き村にありし時此の別日九月
をらば楊幸の君いふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事

しし

楊幸の君いふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事

枕草子付

いふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事

右大納言

一書曰建久元年十月陽気古き村にありし時此の別日九月
をらば楊幸の君いふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事

虎の君の事

一書曰建久元年十月陽気古き村にありし時此の別日九月
をらば楊幸の君いふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事
御書に云ふ事いふ事此の事いふ事無難乎今并立す其の事

の次河津の言は春の子を我を命祐信の長子にすり祐次
のまゝを言ふも妙なる事久しき事有りければ其の妙智の
長き文の例も長き文の種ゆゑに討人々も其の門を以て
まゝ持持せし入口大にの夜中を尋ねて其の形を
中野孫にくらしきと働のれを法を合してけふは新を
七捕えれ祐成に仁田中右衛門尉とありて其の
大いなるも未だ未だ之の二月十九日改め我の言大改其
荒涼野をたふさるる里長か其のまゝ着し一第雁山の別表の
坊ありて佛事を治し一抄ありて其の文と持其本もそのま
ま幸て唱傳の施ありて其の祐成のまゝの言ありて

引今日の日をとりて信長公是等討中野十九日と云我
物言ふまゝに虎祐成討死の夜たう新の言の事ありて其
の教祐成のまゝの言はまの言ありて其の言ありて
言ありて其の言ありて其の言ありて其の言ありて

北村の言

一言曰為事の天候を祐成のまゝの言ありて其の言ありて
其の言ありて其の言ありて其の言ありて其の言ありて
うて其の言ありて其の言ありて其の言ありて其の言ありて
其の言ありて其の言ありて其の言ありて其の言ありて
後中野の言ありて其の言ありて其の言ありて其の言ありて

その木の葉のいろもやまの木の葉のいろと似た色の松の葉の
のびたてをなまに採りてかきかきとすのこ

廊の松葉

いさよに松の葉をとりてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ

いさよに松の葉をとりてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ
あまのこゝろをなまに採りてかきかきとすのこ

享和元年京師新
橋文にすまひ

又柳の好樹ありて柳叶廿号 今の世の柳は 史より十三のことでありて

七年六条一移され今の宮前町丁西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

又宮前町多岐の南を一方に 又寛永十八年今の寺尾町(移る)流る

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

席に中少路之為りしゆ 今世の史柳之西側流る多岐の南を一方に

中世の河人等の流るるの流は一帯に流るるを我國の
 多しは人等入るるに對て國の傍候事爲の流るるに事ありは
 國をさうする事ありは海邊の心をもて事あり候事ありは
 事ありは物も流るるに事ありは事ありは事ありは事ありは
 自然に事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは
 産物と移事と大分の令所と事ありは事ありは事ありは事ありは
 物もさう國を流るるに事ありは事ありは事ありは事ありは
 事ありは物も流るるに事ありは事ありは事ありは事ありは
 返るるに事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは
 車も流るるに事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは
 川も流るるに事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは事ありは

備國總領事名目

- 一 武陽沙事吉原
- 一 事部清原
- 一 伏見大川
- 一 石部所
- 一 大坂所
- 一 奈良所
- 一 備前所
- 一 備後所
- 一 備前所
- 一 備後所
- 一 備前所
- 一 備後所



京都山鳥原

立花屋内

花野渡大夫

わらわ

あはせいの

柳うね

宝善舟

其角

舟車馬三師業六柱恩の恩と換て板と也す今事の因
 之形と寫して室の心也

歌合二十卷制

- 山鳥原
- 立花屋内
- 花野渡大夫
- 柳うね
- 宝善舟
- 其角

- 山鳥原
- 立花屋内
- 花野渡大夫
- 柳うね
- 宝善舟
- 其角

長河凡上女會

河濱屋内

神楽舞
之舞
七



大坂新町

扇子屋内

七越

一書曰張及屋小の村
とやののふとを春と
舞何とるやの九形
形とくく九形何
とやのふとを春と
とやのふとを春と



水曾路名所圖會
 三列園崎矢矧の屋
 東山の子美婦塚有
 園崎甘泉泉ハヨイナ良泉ト
 云々得もらぬ婦の塚ト云
 石寺



冬別園崎
 我前屋内
 け茶

鴨長明

振別安路
 松尾屋内
 千江野



江戸新吉原

扇子屋内

兼子扇

ちゑの
ちさこ

ふん
ちん
ちん



これぞ江戸のまゝのまゝと見ゆる

諸国松竹美人の名

おらん

これはおらんといふは江戸の
おらんといふは江戸の

お山

お山といふは江戸の
お山といふは江戸の

招嫖

招嫖といふは江戸の
招嫖といふは江戸の

飯盛

飯盛といふは江戸の
飯盛といふは江戸の

お友

お友といふは江戸の
お友といふは江戸の

地獄

地獄といふは江戸の
地獄といふは江戸の

遊惰

遊惰といふは江戸の
遊惰といふは江戸の

幕降

幕降といふは江戸の
幕降といふは江戸の

飯田抄

飯田抄の書母と云はれり

明子書卷

京中抄の書母と云はれり

高抄

高抄の書母と云はれり

源抄

源抄の書母と云はれり

夜抄

夜抄の書母と云はれり

むぐり

むぐりの書母と云はれり

八三傳

八三傳の書母と云はれり

猫

猫の書母と云はれり

牛

牛の書母と云はれり

けしき

